

の局中を記るして、人道伝達として て国際法化された。ただ一つの成 文法規であるジユネーブ条約を広 く皆さんに普及じたい。というと ころから次の要領で論文を募集し ています。	▽応募条約 400字詰原稿用紙50 枚以内 別紙に題名、住所、氏	株してきました。 大勢の汚したをした。 大勢の汚したをした。 大勢の汚したをした。 大勢のたした。 大勢のたたをした。 たちの地には リールまです。 何でも のたことはちゃん でいました。 たちの地にそう。 からったちの地に子 のでも したでいました。 たちの地には したった。 大勢のたたた。 たちの地には した。 たちの地には したった。 大勢のたたた。 たちの地には した。 たちの地には でいました。 たちの地には した。 たちの地には した。 たちの地には でいました。 たちの地には ちちの地に たた。 たちの地に たた。 たちの地に たた。 たちの地に たた。 たちの地に たた。 たちの地に たちの地に たちの地に たちの地に たるの地に た で た の た の た の た の た の かん で い ました。 た の かん で い た の た た の た の た の た の た の か ん で い の か た た の か の た の か ん た の か ん た の か ん た の か ん で ら た の か ん で の か ん で の か し た の か ん で の か の か の の か ん で の か ん で の か ん で の か ん の か ん で の か ん で の か ん の か ん の か ん の か ん の か ん の か ん の か ん の か ん の か ん の の か ん の か ん の か ん の か ん の か ん の か ん の か ん の か ん の か ん の か ん ん の か ん の の か ん の た の た の た の た の た の た の た の た の た の の の た の の の の で の の る の の の の の の の の の の の の の	
▽課 夏 ●ジユネーブ諸条約と 人道の諸原則 ●赤十字思想の 歴史と進化、その起源よりジユ ネーブ4条約の採択まで ●人 道思想の進化、日本赤十字の歴 史におけるその影響と将来の展 望 ●ジユネーブ諸条約は人道 的倫理の基礎となり得るか?な り得るとすればその大綱をのべ よ ●諸国民間の親近の要素と		これも小中学生に安心して健康 これも小中学生に安心して健康 しかしながら心ないおうに着してしまうにと いう配慮によるもので、おとなに は違慮していただいたわけです。 しかしながら心ないおうに積してしまう ことは甚だ残念なことです。今後さ ちの弛て、おとなに通していただいたわけです。 たしますが、市民の皆るんの目覚 たいと考えたいと思います(計画課) しかもその態度におんむに積極的に注意い たしますが、市民の皆るんの目覚 たいとうにうれがらなどして したもうに、たいと考えています。 に 一部内の閉るい窓口へと多力していま たいと考えています。 したもころので非常に強しく思う で、日ごろ鳴員研修などを行してしまうの たしますが、さらにされただき したもころので非常に強しく思う したもそうたられたがたでも したもころのです。 たいともので、おとなが、子 したもころのです。 たいと考えたいと思います。 したものの たいたちのの たいたださられただ。 たいと考えています。 したるのです。 たいたちのです。 たいと考えていたたいたわけです。 たいたまのの たいたださられただ。 してたさるのです。 たいたきしていただ。 たいと思います。 してたさるのです。 たいと考えていたたいたわけです。 たいたたいたわけです。 たいたたいたわけです。 たいたたいたわけです。 たいたちのの たいと思います。 してたちるのです。 たいたちの たいと思います。 たいと思います。 してたちるの たいと思います。 してたちるのです。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいと思います。 たいとしていたちなどの たいと していたちるたいと していたちる たいと たいたちても たいと たいと たいと たいと たいと たいと してい たいと たい たい たい たい たい たい たい たちて たい たい たちったちで たい たちったち たい たちった たい たちった たちった た います して して して して して た います して た います して た います して して た います た います して して して して して して して して して して	



ても、この寺院あとには相当量の 盛り土があることが考えられると き)などが出ている状況から推し 師器(はじき)や須恵器(すえ りも特位さがったところから、 ています。またこの付近の地表よ 土

のか、あるいは金堂の、人目につ きやすい柱の根締めにしたもの) 塔の心柱の周囲に根諦めにしたも ろで発見された根巻石(これは7 年7月に、東方約100皆のとこ 個の石で7葉の蓮の弁を形どり、 このほか同神社境内には昭和10

弥市方にも石製しびが などがあり付近の都丸 の残片及び「てんとう れた魔除けの装飾物) 様石」と呼ばれる巨石 果に屋根の両端に飾ら

ことがわかりますが、 大きな寺院のあつた この山王には、その曹 これらを考えると、

金堂(こんど はじめごろ、 の末8世紀の ち、飛鳥時代 以前、すなわ されたよりも ような寺院が 国分寺が建立 というと、 00 世紀(74 くられたか に国府に

【写真は日枝神社の六角堂堂内